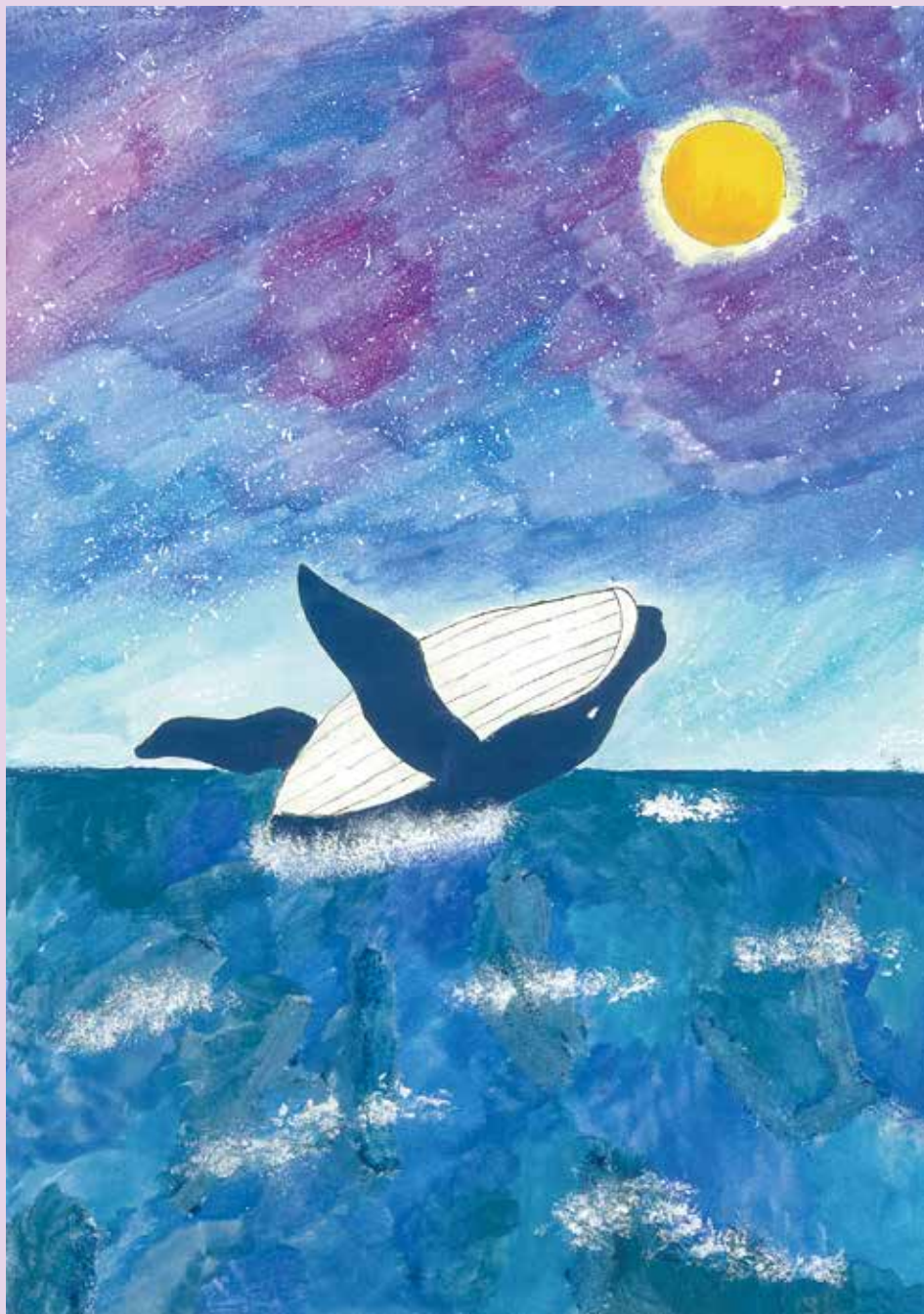


こんにちは

魚沼市議会です



令和2年第4回定例会 No.71



「星と月に照らされて」 広神中学校 2年 山田菜々子さん

CONTENTS

臨時会・定例会・補正予算・議案 …… 2～3	中学生議会を開催しました …… 14～16
選挙管理委員会委員及び補充員・	議会報告会 …… 17
議員発議・議会TOPICS …… 4	常任・特別委員会報告 …… 18～21
一般質問 …… 5～12	市民の声・わが校自慢・あしがき …… 22
聞かせて！あなたの声「Voice」 …… 13	

〈発行責任者 議長 遠藤 徳一〉 広報編集特別委員長 富永 三千敏 副委員長 星野 みゆき
委員 浅井 宏昭 大桃 俊彦 渡辺 一美 関矢 孝夫



議長 遠藤徳一

新年の挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より、市民の皆様方から、市議会にお寄せいただきますご支援・ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が短期間に世界中に蔓延し、本年1月12日現在の累計感染者が全世界で8,971万人、日本で30万人、死亡者数が全世界で197万人、日本で4千人と猛威を振るっており、いまだに終息の見通しがつかない状況です。魚沼市議会といたしましても、万全の対策の下、市民の安心安全のために努めて参りたいと思います。

さて、世界の政治面ではアメリカ合衆国大統領選が行われ、共和党のトランプ大統領から民主党のバイデン大統領へ政権が代わることとなりました。これまでのトランプ政権での自国主義から方針転換し、全世界に有効なリーダーシップを望むものです。

国内では7年を超え、長期にわたり政権を担っていた安倍首相から新しく菅首相が誕生しました。また、世界中の人々が期待を寄せていた東京オリンピックの開催も新型コロナウイルス感染症拡大のため、本年に延期となるなど政財界に大きな影響を与える出来事が数多くありました。

今年の干支は「丑（うし）」であります。牛は、勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、また「紐」という漢字に「丑」の字が使われており、「結ぶ」や「つかむ」などの意味を込めたとも考えられています。

昨年は、魚沼市も新庁舎開庁、内田新市長の誕生と歴史に残る変化の年でした。新しい年は、「丑」に象徴されるように着実に絆を大切にしながら困難に立ち向かっていく年としたいと思っております。

また、6月には市議会議員の改選があります。定員も2名減の18名となり、新しい顔ぶれで7月から議会活動を行うこととなります。

本年も魚沼市議会をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第4回臨時会・定例会報告

令和2年第4回臨時会が11月24日に開催され、市長提出の「魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正について」のほか2件の条例改正案と議員発議の「魚沼市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について」の4件を可決しました。

令和2年第4回定例会が12月22日から1月19日の29日間の会期で開催されました。議会初日に、一般会計補正予算をはじめ8件の補正予算を可決しました。議案第99号、100号及び101号はそれぞれ委員会に付託後、即日可決しました。1月13日と15日には15人の議員が一般質問を行いました。最終日には、各委員会付託の議案等すべてが可決しました。スキー場に関する請願は継続審査とし、さらに調査することとしました。また、追加議案の副市長の選任について同意しました。

同意第21号 副市長の選任に同意しました

櫻井 雅人氏
(61歳)

1月19日に行われた「第4回定例会」において、議会の同意を得て、副市長に櫻井雅人氏が選任されました。任期は2月1日から4年間です。

経歴

昭和57年3月…法政大学卒業

昭和57年4月…湯之谷村役場入職

平成25年4月…魚沼市役所 総務管理室長

平成27年4月…魚沼市役所 議会事務局次長

平成28年4月…魚沼市役所 議会事務局長

令和2年3月…退職

令和2年4月…堀之内なかよし保育園長

第4回定例会補正予算

		補正前の額	補正額	計	主 な 内 容
一般会計(第6号)		344億2,310万円	10億7,610万円	354億9,920万円	歳入:新型コロナウイルス感染症対策事業に係る国・県支出金の追加又は減額、ふるさと寄附金及びふるさと結基金繰入金等の追加、財政調整基金繰入金の調整など 歳出:給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整、ふるさと寄附金の増加に伴う関係経費の追加、新型コロナウイルス感染症対策関係経費の追加など
国民健康保険特別会計(第1号)		31億2,600万円	1,480万円	31億4,080万円	歳入:前年度決算に伴う繰越金の追加など 歳出:前年度保険給付費負担金の精算などに伴う県への償還金の追加など
後期高齢者医療特別会計(第1号)		8億5,900万円	1,140万円	8億7,040万円	歳入:前年度決算に伴う療養給付費負担金の精算や前年度繰越金の追加、一般会計繰入金の減額など 歳出:給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整、前年度保険料負担金の精算などに伴う広域連合への納付金の追加など
介護保険特別会計(第2号)		52億9,960万円	120万円	53億80万円	歳入:歳入歳出予算に関連する国の補助金の追加など 歳出:人事異動に伴う職員給与費の減額、制度改正に伴うシステム改修経費の追加など
病院事業会計(第1号)	収益的収入	9億6,200万円	20万円	9億6,220万円	給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整
	収益的支出	9億1,700万円	20万円	9億1,720万円	
ガス事業会計(第2号)	収益的支出	14億6,400万円	△1,050万円	14億5,350万円	給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整
	資本的支出	1億6,900万円	△160万円	1億6,740万円	
水道事業会計(第3号)	収益的支出	9億1,300万円	△550万円	9億750万円	給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整
	資本的支出	6億8,760万円	150万円	6億8,910万円	
下水道事業会計(第2号)	収益的支出	23億6,300万円	△420万円	23億5,880万円	給与改定、人事異動などに伴う職員給与費の調整
	資本的支出	15億5,600万円	△30万円	15億5,570万円	

第4回臨時会議案等

◎=全会一致 ○=賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×=否決・不採択・不承認

議案番号等	付 議 事 件	議決結果
議案第87号	魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正について	◎
議案第88号	魚沼市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	◎

議案番号等	付 議 事 件	議決結果
議案第89号	魚沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について	◎
議員発議第4号	魚沼市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	◎

第4回定例会議案等

◎=全会一致 ○=賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×=否決・不採択・不承認

議案番号等	付 議 事 件	議決結果
議案第90号	令和2年度魚沼市一般会計補正予算(第6号)	◎
議案第91号	令和2年度魚沼市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	◎
議案第92号	令和2年度魚沼市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	◎
議案第93号	令和2年度魚沼市介護保険特別会計補正予算(第2号)	◎
議案第94号	令和2年度魚沼市病院事業会計補正予算(第1号)	◎
議案第95号	令和2年度魚沼市ガス事業会計補正予算(第2号)	◎
議案第96号	令和2年度魚沼市水道事業会計補正予算(第3号)	◎
議案第97号	令和2年度魚沼市下水道事業会計補正予算(第2号)	◎
議案第98号	魚沼市公共施設整備等基金条例の一部改正について(公共施設整備等基金を公共施設の解体撤去の資金に充てることも可能とするため、所要の改正を行うもの)	◎
議案第99号	魚沼市分担金等の督促手数料及び延滞金徴収条例の一部改正について(租税特別措置法の改正に伴い、所要の改正を行うもの)	◎
議案第100号	魚沼市入湯税条例等の一部改正について(租税特別措置法の改正に伴い、所要の改正を行うもの)	◎
議案第101号	魚沼市国民健康保険税条例の一部改正について(地方税法施行令の改正に伴い、所要の改正を行うもの)	◎

議案番号等	付 議 事 件	議決結果
議案第102号	市有地の処分について(水の郷工業団地造成地の一部を、企業の工場用地として、売却処分するもの)	◎
議案第103号	市道路線の認定について(国土交通省による浦佐バイパス整備事業の実施及び市街化による生活道路への様態変更に伴い、市道路線の認定をするもの)	◎
議案第104号	市道路線の変更について(国土交通省による浦佐バイパス整備事業実施、小平尾地区の県営圃場整備事業完了及び管理境界変更に伴い、市道路線の変更をするもの)	◎
議案第105号	市道路線の廃止について(市役所新庁舎の移転に伴い、庁舎の敷地内となった市道を構内道路として管理するため、市道を廃止するもの)	◎
議案第106号	人権擁護委員候補者の推薦について(中原 滝澤 郁代氏)	◎
議案第107号	人権擁護委員候補者の推薦について(中家 大嶋のり子氏)	◎
同意第21号	副市長の選任について(井口新田 櫻井 雅人氏)	◎
選挙第1号	魚沼市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について	◎
議員発議第5号	防災・減災、国土強靱化対策の継続的な推進を求める意見書の提出について	◎
請願取下げ	請願第3号「魚沼須原スキー場並びに市内スキー場の持続可能な運営を求める請願」の取下げについて	◎
請願第4号	須原スキー場及び市内スキー場の持続可能な運営について市長への提言を求める請願	継続審査

選挙管理委員会委員及び補充員の選挙結果 全員賛成で可決されました

任期満了に伴う次期選挙管理委員及び補充員について、議長の指名推薦により選挙を行い、当選人をつぎのとおり決定いたしました。

※選挙管理委員が万が一欠けた場合に備えて、補充員が4人選挙されています。選挙管理委員の任期は、4年とされています。

魚沼市選挙管理委員会委員	
氏名	住所
田中敬一郎	魚沼市大石
貝瀬 直子	魚沼市小出島
大塚 宏子	魚沼市須原
渡辺 満行	魚沼市大沢

魚沼市選挙管理委員会委員補充員		
順位	氏名	住所
1位	山田 弘行	魚沼市小平尾
2位	渡辺あや子	魚沼市中原
3位	浅井 正浩	魚沼市大板山
4位	貝沼 純子	魚沼市堀之内

発議第5号

「防災・減災、国土強靱化対策の継続的な推進」を求める意見書

激甚化する自然災害に備えた事前防災を加速するため、「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」に続き、インフラ施設老朽化対策等の対象事業の拡大を図るとともに、事業期間の中長期的かつ明確な見通しのもと、別枠による必要な予算・財源を確保するよう、意見書を関係機関に提出しました。

発議とは… 議員が議案を提出すること。市長が提出する議案と同様に、議会で審議をして採決します。

議会 TOPICS

心温まるひとときを 『なごみCAFE』オープン！

1月15日、市議会定例会の休憩時間を利用して、小出特別支援学校高等部の生徒さんによる『なごみカフェ』と『クラフトショップHAPPY』を本庁舎でオープンしていただきました。

コロナ禍のため、例年カフェを開設していたイベントの中止が相次ぎ、今回が今年度初の実施となりました。スタート時は緊張気味の皆さんでしたが、徐々に笑顔が出てきて、練習を重ねてきた日頃の成果を発揮！お揃いのキャスケットにエプロン姿が格好良く決まっていました。

背筋をピンと伸ばし「お砂糖とクリームはお使いですか？」一人ひとりに丁寧な対応をしていただき、文字どおり、訪れた人たちがホッと一息つける“なごみの時間”を提供していただきました。

当日は、作業製品の販売会も開催。さをり織のカバンや廃油処理に便利な油吸い取りパックなどが大好評でした。

生徒の皆さん、心温まる素敵な時間をありがとうございました。



「コーヒーひとつお願いします」
オーダーをしっかりと伝えます



「お待たせいたしました！」
丁寧な対応をしていただきました



「こちらがおすすめ商品です」
売り込み上手な生徒さんたち(^_^)

問 観光課が主体的に担うべき領域と観光協会の役割をどのように捉えているか。

答 行政が主体的に担うべき領域は、市が推進する観光ブランディング「素のチカラ、魚沼。」のブランドコンセプトに基づいた市外への観光PRや、このコンセプトを市内の観光事業者や観光団体に浸透させ、組織的な観光マネジメント、仕組みづくりを実行できる体制整備を行うことと認識している。観光協会は、市外からの外貨を獲得できるようなPRや営業活動に重点を置き、協会の具体的な収益向上につながる役割を担い、行政はそれらの活動を下支えするものと考ええる。互いに連携し、観光振興を進めていくことが大切であると考ええる。

問 薬師スケートパークの施設整備を行うってはどうか。

答 現在のところ施設の整備は考えていない。

問 「スキー場の適正な管理と充実」に向けた現段階のビジョンはあるのか。

答 持続可能なスキー場運営に向けた行政の関わり方を再検討すると共に、引き続き運営事業者と存続に向けた協議を進めたい。

問 学校のグラウンドで行われるスポーツ少年団の活動で、緊急時に学校内にあるAEDを使用するように徹底してはどうか。

答 各学校と協議したうえで、学校内に設置されているAEDが使用できるように検討する。



星 直樹

地域経済活性化と住みやすい地域づくりについて



浅井 宏昭

北部地区の高齢者移動手段について



問 1 北部地区は高齢者が多く免許返納者も多く出てくることから買い物難民の増加が予測される。高齢者の移動手段に対する考えはあるか。

2 克雪の面から、高齢者に対する手厚い支援は考えているか。

答 1 乗合タクシーや入広瀬コミュニティバスの運行により、移動手段の確保を行っている。また、「魚沼市地域公共交通計画」の中で、北部地区の特性に応じた公共交通の確保・維持について位置付けると共に、高齢者の生活に必要な移動手段として、利便性を確保し維持していくことができる公共交通を整備していくことが重要と考える。

2 軽度生活支援事業の制度の中で除雪援助を行っているほか、屋根融雪や玄関先の融雪装置の経費の助成も行っている。

問 市民への情報発信方法について

防災無線が聞こえず大事な情報

報が得ることができないという声が多い。この問題に対する市長の考えを問う。

答 防災行政無線が聞こえにくい地域の要望等に基づいて現地調査を行い、子局増設の調整を行っているが、予算等の関係もあり、全地域の整備には時間がかかる。今後、新しい媒体による情報発信手段について検討する。

問 情報発信手段として、「グループエアー」というアプリを活用してはどうか。ガラケーはもちろん、スマホ、タブレット、PCに対応し、防災情報、避難所情報、不審者情報や熊の出没場所を地図に表示するなど、地域に密着した様々な情報を発信できるほか、防災無線の音声による情報配信が特徴的で、操作不要で自動で防災無線が流れる仕組みだが導入してはどうか。

答 今後前向きに検討していきたい。



関矢 孝夫

市長の市政運営方針を問う



市長選で行った公約の中で、つぎの項目について具体的な施策を問う。

問 「教育や医療等の助成の拡充を行う」ことについて。

答 教育については、人的配置の拡充など、学校現場の要望を取り入れて教育環境の整備を進める。医療については、新生児の聴覚スクリーニング検査費用等の助成や、養育支援家庭への育児支援サービスの利用料助成など検討を進める。

問 「学校給食費の軽減や徴収の在り方を見直す」ことについて。

答 食育や地産地消の観点から、地元食材の活用や地元業者からの調達を進めながら、保護者負担の軽減につながる取組を進める。

問 街頭演説で給食費の無償化を訴えたという話を聞いたが、無償化に向けた計画を進めるのか。

答 できれば無償化したいという話をしたことは記憶している。無償化の実現に向けて検討をしたいということである。

問 「建設事業者や除雪事業者の人材育成と後継者確保のために必要

な支援を行う」ことについて。

答 人材育成と後継者を確保するためには、事業者の継続的かつ安定的な経営基盤が必要と考えており、毎年継続した事業量が見込めるよう、予算確保に努める。

問 これまでの4年間は、入札制度の中で、市内でできるものについては市内業者で行ってきたが、今後継続するのか。

答 基本的にはそのような考えである。

問 「福祉・介護現場で働く人たちの待遇改善を図り、人材を確保し、たうで受入施設の増設を図る」ことについて。

答 福祉・介護現場については、働く方の声を聞きながら、社会福祉法人に対して必要な支援を行いながら、待遇改善について働き掛けていく。

問 国が行っている処遇改善に上乘せしたような、市独自の処遇改善を考えているのか。

答 今現在、市独自の処遇改善は考えていないが、事業者と意見交換を今後進めた中で検討していく。



佐藤 敏雄

魚沼市の高齢者対策について問う



問 魚沼市は合併後16年で、人口が9,248人減少し、高齢化率は10.3%上昇し37%となった。少子高齢化の傾向はさらに続くと厚労白書に報告されている。このような厳しい状況下の対策は、元氣老人を増やすことで、医療費を抑え、「ピンピンコロリ」を目指すべきと考える。

市長は就任の挨拶の中で「できない理由でなく、どうしたら解決できるかを考えて欲しい」と述べられた。元氣老人の働く場を増やすため、シルバー人材センターの機能整備とさらなるPRに努めるべきと考えるがどうか。

答 今後も就業を通じて健康維持、生きがいづくりに大いに貢献していただけるよう、様々な面で運営を支援させていただく。

問 ゲートボールの推奨・ヤッコム等の運動施設の利用促進を図ってどうか。

答 健康増進や介護予防等の観点

から、既存体育施設や自然を生かした各種スポーツの振興に努めたい。

問 ボウリング施設の設置要望について、4,607名の署名が市に提出され4年が経過する。設置はできないのか。

答 ボウリング関係者と井口新田・大下コミュニティ協議会との話し合いの場で、湯之谷小第2体育館へはボウリング施設を設置しないという話になったとの報告を受けている。

問 県の調査によると、特別養護老人ホームの待機者が、238名いる。介護人材や施設運営を地元だけに頼らず、柔軟な対策を求めたいと考えるがどうか。

答 まずは市内の関係法人と施設整備について協議したいと考えているが、事業主体を地元以外に求めることについては今後の検討課題と考えている。



大桃 聡

芝桜事業について市長の見解を問う



問 平成30年第2回及び第4回定例会の一般質問で、福井県大野市で行われている芝桜事業について提案した。前市長は「今後検討したい」と答弁しながら、予算計上がなされないままである。新市長はこの事業についてどのように考えるか。

答 畦畔等法面の適正管理、労力軽減のため本事業は有効な取組と考えている。

問 1 当市の監査制度は十分に機能していると考えるか。

答 2 現在の監査委員は市民の負託に応えるような適正な監査をしていないと考えるが、辞職しなければ、罷免の手続きをとるか。

問 外部監査制度の導入についてどう考えるか。

答 2問まとめたの答弁となるが、就任間もないので、今までの経過等の確認が必要であると考えます。

問 外部監査制度の導入については、今後検討が必要と考えるか。

答 外部監査制度の導入については、公民館や避難所の非常用電源

について、新庁舎でも採用したソーラーパネルと蓄電池を使ったオフグリッドを設置すべきではないか。

答 災害時の停電リスクや省エネルギーの観点からも有効な電源供給方法と考えるが、導入費用も必要となることから、費用対効果等を含めて検討を進めたい。

問 斎場建設瑕疵担保請求(滞納繰越分)について、来年度予算においてどうするか。

答 現在予算編成中であることから、答弁は差し控えるが、これまでの経緯を把握したうえで検討する。

問 無償譲渡された物品についてどうするか。

答 細野自治区に無償譲渡した除雪車については、自治会からの申出により、返却いただいている。そのほかの自治会に無償譲渡した物品は、一旦返却してもらうことも含め検討する。

※このほか、「庁舎前道路の改良」について質問しました。



本田 篤

パワーハラスメントの実態について



問 相談員は総務人事課の課長・係長であるが、十分な研修を受け、親身になって相談しているか。

答 苦情相談や事案等が発生した場合、事前の研修等をしたうえで対応にあたっているが、加えて、相談員の増員や見直し等も含め、より相談体制を強化し、被害者への適正な配慮や事実関係の確認等によってハラスメント防止に努める。

問 所属長を含め行政組織全体が日々の業務を当たり前のことと思

い、職員に負担を強い「見えないパワーハラスメント」を見逃してはいけない。過度な業務要求、過度な訓練など、常識的に考えられない職場環境はないか。また、第三者の視点も取り入れてみてはどうか。

答 毎年、全職員を対象に調査を

実施し、ハラスメントの実態把握及び防止対策に努めている。第三者の視点の導入については、これまでも専門機関への相談はしている。今後も継続していく。

学校給食は公が責任を持って

問 学校給食は公会計に組み入れることにより、先生方の負担も減ることから、市が責任を持って取り組むべきではないか。また、給食費の無償化も検討しているか。

答 市では平成16年度に給食費の公会計化を実施済みであり、給食費は市の会計に組み入れ、滞納が生じた場合は市で徴収している。

無償化については、多くの課題があるが、検討したいと考える。まずは保護者負担の軽減を検討したい。



志田 貢

介護人材確保策について



問 介護人材の確保策は難しい課題である。結果的には、これまでの市の事業も十分ではなかったと考える。より予算を投入して、策を考えるべきと思うがどうか。

答 これまでの市の介護人材確保事業が十分ではなかったという点については、ご指摘の面もあるうかと思う。しかしながら、より予算を投入することでその問題を解決できるかどうかについては、今後も介護現場の声を聞きながら検討したい。

問 処遇改善手当などは考えているか。

答 市独自の処遇改善手当については、ほかの業種でも人材不足は深刻であることから、市全体で総合的に判断すべき課題と捉えている。

問 事業所同士が連携しあい人材出向・育成・募集などを行うことで、事業所自体も運営の効率化を図ることができると考える。高齢者福祉の場合は、これらを一括でまとめる連携推進団体の設置について、市が積極的に取り組む方策が良いと考えるがどうか。

答 それぞれの法人の運営理念や考え方も異なっていることもあり、現時点では連携推進団体の設立は考えていないが、人材募集などの活動の支援は引き続き行っていく。

問 処遇改善手当の取り組みとして、市有施設の無料利用券等を介護職や医療従事者に配布してはどうか。

答 ご意見を参考にして、検討したい。



大平 栄治

黒姫洞窟遺跡の活用について問う



問 大白川地区の黒姫洞窟遺跡は、平成26年に市指定文化財となった。特に発掘された出土品は、約1万6千年前からのもので、日本国内で発見された縄文時代最古級の資料である。

答 大白川地区の市有空施設を常設展示場として整備し、県立エコ・ミュージアムや浅草山荘、破間川ダムなどと一体で新たな教育資源、観光資源として活用してはどうか。

問 黒姫洞窟遺跡などの埋蔵文化財に限らず、市の文化財を展示及び紹介する文化財展示施設について、旧庁舎などの市有の空き施設を活用し、整備する方向で準備を進めている。

答 小学生でも保護者同伴で現地見学できるように、登山道整備を求めたいがどうか。また、案内看板や遺跡保全の対策も必要と考えるがどうか。

問 黒姫洞窟遺跡については、調査完了後に現地での見学が行えるよう考えているが、保安林内でもあるため、関係機関との協議も含め、早期に実現できるよう準備を進めたい。

答 寿和温泉改修について問う

問 地域の高齢者から使いやすい施設にしてほしいとの要望が出ています。2年前に改修工事を施した露天風呂棟に内湯を設置し、コンパクトで経費がかからないようにしていただきたいが、地域との話し合い、今後の改修計画について問う。

答 寿和温泉は地域にとって大切な施設であるという認識であり、必要な改修は行わなければならない。利用者にとって少しでも良い改修ができるよう検討を進めたいと考える。



星野みゆき

堀之内の介護施設の充実に 実について問う



問 「労働環境を整え、介護人材さえ確保できればすぐにでも特別養護老人ホーム50床は開設できる」この度の市長選での街頭演説で、内田市長が述べたこの部分に市民は大いに期待している。
旧堀之内病院跡地についてどのように考えているか。

答 現在、診療を行っている堀之内医療センターについては、堀之内地域における医療の拠点と考えている。今後、地域の医療の中心としての役割を維持し、医療、介護の拠点としてどのような施設整備が適当なのか引き続き検討していく。

問 第8期介護保険事業計画期間の中で、特別養護老人ホーム50床の整備計画についてどのように考えているか。

答 現段階では、運営法人も見つかっておらず課題は大きいですが、現在の待機者数や今後の高齢化率の増加により在宅介護も難しい状況が想定されることから、粘り強く対応していきたい。

医師確保について

問 魚沼地域は県内でも最も医師が少ない地域であり、とりわけ小児科・産科医の不足が子どもを産み育てる環境を奪っている。医師確保が最重要課題だと思われる。
医師確保について、今後思い切った方策が必要と思うが考えはあるか。

答 市立医療機関の医師確保対策として、修学支援金の貸与制度により、医師を目指す学生に対して支援を行っている。支援状況については、既に卒業し、市立小出病院で勤務している者が1名、現在就学中の学生が4名おり、将来の医師確保対策として有効な対策であると考えている。

問 今後の医師確保について新たな方策は考えているか。

答 新年度予算の編成の中で検討していく。

※このほか、「成人式の対応」について質問しました。



高野甲子雄

非正規保育士の賃金改善を 図れ



問 魚沼市でも就学前児童数が減少傾向にある一方、保育所への3歳未満児の入園児童は増えているが、保育士の確保が難しくなっている。市長の認識はどうか。

答 就学前児童数は減少傾向にある一方、保育園においては3歳未満児の入園希望の増加にもない入園児童数は微増傾向にあるものの、全体的には園児数は定員に達していない。また、保育士については、3歳未満児や配慮が必要な児童の増加等にもなう増員が必要となっているが、確保も難しい状況であると認識している。

問 保育は国、自治体の責務と考えるがどうか。

答 市の責務として責任をもって取り組んでいく。

問 保育士確保は賃金が低いこと、身分の不安定さが要因と考えられるがどうか。

答 中長期的な定員管理計画により保育士の正規採用を行うほか、短期的な保育需要の増には会計年度任用職員で対応し、人材確保に取り組む。

問 保育士の配置基準が、0歳児

3人に職員1名、1、2歳児6人に職員1名である。この基準だと非常時の避難に対応できない。見直す考えはないか。

答 現在のところ配置基準自体の見直しは考えていない。

問 私立保育園、幼稚園への市独自の支援策はとられているか。

答 私立幼稚園には運営費補助金を、私立保育園には障害児対応のための加配職員の配置や園児送迎車両運行事業への補助金を行っている。

原発再稼働は認めるな

問 柏崎刈羽原発は軟弱地盤、活断層の上であり、中越沖地震でも大きな被害を受けている原発である。再稼働は認められないと考えるが、市長の見解はどうか。

答 再稼働の是非は、市民の生命と財産を守るべく、安全性の確率を最優先に考えたうえで判断すべきと考える。国、県、周辺自治体等の動向を注視しつつ、多方面の意見を聴いたうえで考えをお示したい。

※このほか、「小出インターの名称変更」について質問しました。



渡辺 一美

「地域包括支援センター」の5カ所設置を



問 地域包括支援センターは、様々な生活上の困りごとに対応してくれる総合相談所のような存在である。魚沼市の広大な面積で、概ね30分以内で適切な支援をするためには、3カ所ではなく、5カ所の支援センターが必要と考えるがどうか。

答 第7期介護保険事業計画策定委員会での審議やパブリックコメントの実施により決定していることから、第8期の計画でも3カ所の設置としたい。

問 第8期ですぐに5カ所は無理であると思うが、南と西の地域包括支援センターは、サブセンターを設置して5カ所にできないか。

答 第8期の中で事業者と検討していきたい。

問 地域包括支援センターは介護保険の適切な運営のために介護支援専門員の資質向上の役割も担うが、市の役割をどのように考えているか。

答 市と地域包括支援センターと

が協力して研修を実施しており、今後も継続していく。

問 238人の待機者に対応するには特別養護老人ホーム50床増では足りない。第8期で「地域密着型介護老人福祉施設」を計画にあげること、グループホーム等の住居費が高く入所できない低所得者に対して、住居費の補助制度を提案する。

答 現在50床整備も難しい状況であることから、さらに規模を増やすことは難しいと考えるが、地域密着型介護老人福祉施設については法人との協議の中で可能性は探っていきたい。また、施設の居住費用は先進地の事例を研究する。

問 市職員全員に、地域包括ケアシステムは各種計画と一体的に考える「まちづくり」の考え方に立っていることをしっかりと理解してもらう機会をつくることを提案する。

答 機会をとらえて職員に周知する方法を検討する。



富永三千敏

新ごみ処理施設の市内候補地の検討を



問 市長は財政健全化のために、公共施設の整理と再配置に取り組むとの考えを示した。二市一町で進めている新ごみ処理施設候補地が未確定のままである。協定を尊重しながらも1カ所に拘らず2カ所建設を考え、大型商業施設付近など、当市の中心地での建設も視野に入れてはどうか。

答 昨年2月の建設候補地の白紙撤回を受け、現時点では二市一町の間で建設方法や候補地選定のすり合わせの段階に留まっている。

施設整備は本市・市民にとって有益となる方法をもって進めるべきであると考え、ご提案の内容も含め、柔軟に検討したいと考える。

問 魚沼の自然や食、歴史文化を生かした観光振興と友好都市等との交流人口の拡大にどう取り組むか。「食まちうおぬま」、「素のチカラ、魚沼。」等で取り組んでいるが、総合的な計画となる観光振興計画を策定しないか。

震災復興基金事業が終わり、大人

の体験受入事業がなくなる。これに代わる予算付けか仕組みを考えないか。

答 魚沼の魅力を盛り込んだ団体誘客ツアー催行などの観光活性化を考え、観光協会と連携して、継続的な来訪につなげることが外貨獲得につながるものと考えている。

さらなる交流人口の拡大に向けては、感染症が落ち着いた適期にトップセールスを行い、新たな販路開拓を進めたい。観光振興計画策定は早急に取り組む。震災復興基金事業に代わる取組は現在検討中である。

問 国・県補助事業等の積極的な導入の考えを示した。そのために国の研修機関に職員を派遣しないか。また、専門職員の配置は5年以上にしないか。

答 専門知識、技術を習得した職員の育成は重要であると考える。職員の適材適所の配置と、より専門性の高い効果的な研修等の実施に努めたい。専門職員の配置は提案のように検討したい。



大屋 角政

原発事故対策について 問う



問 新潟県は、柏崎刈羽原発が存在する。事故を引き起こすと、計り知れない災害となる。柏崎刈羽原発はUPZ^{※1}内を大きく超えて放射能汚染が広がる環境にあり、当然、魚沼市も放射能汚染区域だ。通常の放射線量は1時間当たり0・1マイクロシーベルトだが、その6千倍もの放射線量になるというシミュレーションもある。これでは、ほかの自治体住民を受け入れるどころか、魚沼市民を優先して避難させなければならぬ。

答 原発事故で一番重要な安全に避難できる避難計画ができない限り、再稼働は認めてはいけなないと考えるが市長の見解を問う。

問 本市はUPZ外であるが、風向き等により、UPZ外への影響が生じた場合の対応も含めた安全に避難できる避難計画の構築に向け、県及び他自治体と調整を進めたい。再稼働については、市民の生命と財産

を守るべく、安全に避難できる体制整備も含めた安全性の確立を最優先に、国、県、周辺自治体の動向を注視し、多方面の意見を聴いたうえでお示ししたい。

※1 UPZ (緊急時防護措置準備区域)
柏崎刈羽原発より半径30 km圏内の自治体。

農業問題について

問 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、農業にも影響が出ている。今年も農産物の価格が大暴落する恐れがあるといわれている。米に限らず、農産物の価格補償等の支援について、市長の見解を問う。

答 コロナ禍に対する農産物の支援については、消費行動や販売環境の変化を的確に捉えた対応が必要であると考えている。



大平 恭児

スキー場存続署名の認識を問う



問 「市民のスキー場を考える会」が、市に提出した嘆願署名18,344筆をどう受け止めたのか。

答 署名簿は市内に留まらず、市外、県外の方も含まれており、市内スキー場が広く愛されていることを再認識した。署名者の想いは重く受け止めている。

問 スキー場完全民営化の方針は変える考えはないか。

答 持続可能なスキー場運営に向けた行政の関わり方を検討すると共に、引き続き運営事業者と存続に向けた協議を進めたい。

問 スキー場を含む観光やスポーツ、教育の面から新たに計画を作るべきでないか。

答 第2次魚沼市総合計画後期基本計画において、産業分野では地域資源を最大限に活かした観光振興を、教育・文化分野では、誰でも楽しく健康づくりができる活動の推進を主要な施策の一つと位置付けており、この実現に向けて努めたい。

問 索道施設や圧雪車など老朽化が言われてきた。更新の考えを伺う。

答 毎年、整備点検及び維持修繕をしているが、型式が古く一部調達が容易でない部品があるため、運営事業者と検討したい。

新型コロナウイルス対策について

問 昨年12月、市内でPCR検査体制ができたことは、大いに評価できる。今後を考えれば、検査体制を強化して検査数を増やす考えはないか。また、課題は何か。

答 検査体制整備の主体である県の意向を踏まえ、感染状況の推移を勘案し、医師会と医療機関からの協力をいただきながら検討したい。魚沼地域の医療体制において、通常の診療と検査体制の拡充の両立が課題と考える。

問 中小事業者経営継続支援事業の期間延長と支援の拡充を考えないか。

答 既存制度の拡充や新たな支援策の実施など総合的に検討したい。



大桃 俊彦

高齢者肺炎球菌ワクチン 予防接種の周知について



問 市ホームページには、高齢者肺炎球菌について、詳細に掲載されていない。接種にあたっての費用や回数、注意点等を掲載し、市民に誤解のないように理解を頂いたうえで、予防接種を受けて貰いたいと考えているが見解を伺う。

答 ホームページの記事の修正や、対象者のうち未だ接種をされていない方に対して、再勧奨する予定である。今後も分かりやすい表現での周知に努める。

問 ワクチンの予防効果年数や接種回数等はお知らせしないのか。

答 効果年数には個人差があり、一概には言えない。接種回数等については、逆に不安をおおるようなことがないように、周知については検討したい。

問 未接種者に対して、個別に再勧奨を実施しているか。

答 再勧奨については今後予定している。

問 2回目の公費助成を市独自で

検討できないか。

答 対象年齢の方に対する接種の機会を提供することを優先し、2回目以降の接種に対する独自助成は現在のところ考えていない。

問 高齢になるにつれて、死亡率は高くなる。65歳での接種は、国の法に基づくものだが、個人差はあるものの一度の接種で効果は5年続くと聞く。2回目は何歳で受けるべきと考えるか。

答 予防効果は個人差がある。持病等による影響もあるため、再接種を希望する場合は、かかりつけ医と相談して決めていただきたい。

問 病院により接種費用に差があることを市民に周知すべきと考えるがどうか。

答 今後検討する。

※このほか、「市長選候補予定者の討論会での市長が市民に示した、新型コロナウイルスと地域経済への対策」について質問しました。

議会を傍聴しませんか？

～令和3年第1回定例会のご案内～



事前の手続きは必要ありませんので、ぜひお気軽にお越しください。

■本会議及び特別委員会は、本庁舎3階議場、常任委員会は、本庁舎3階委員会室で午前10時から開始します。

■傍聴の際は、議場または委員会室入口で傍聴カードをご記入のうえ、傍聴席へお入りください。

■現在、新型コロナウイルス感染症対策として、傍聴席の座席数を制限しております(18席)。ご理解をお願いいたします。

会 期	会 議 の 内 容
2月24日(水)	本会議 (即決案件等)
25日(木)	本会議 (市長所信表明、新年度予算等)
26日(金)	本会議 (委員会付託等)
3月1日(月)	総務文教委員会
4日(木)	市民福祉委員会
5日(金)	産業建設委員会
9日(火)	本会議 一般質問
10日(水)	本会議 一般質問
15日(月)	予算審査特別委員会
16日(火)	予算審査特別委員会
17日(水)	予算審査特別委員会
23日(火)	本会議 (委員長報告、質疑・採決等)

Voice

聞かせて！あなたの声

魚沼ふたごサークル さくらんぼ × 市議会

地域で活躍する皆さんと、ざっくばらんに語り合うコーナーです。

第4回目は、昨年12月に設立した、多胎児のサークル「さくらんぼ」代表の村山麗子さんから活動内容やサークルを発足させた思いを聞かせていただきました。



「さくらんぼ」初会合の様子。これからも、安心して多胎児の育児ができる魚沼市になるために活動をしていきたいです。その第一歩として、まずはこのサークルがパパママたちが悩みを相談できる温かい場所になることを目指します！

「さくらんぼ」発足について

多胎児のサークルはこれまで魚沼市にはありませんでした。

多胎児の家庭ならではの悩みを、同じ境遇の仲間と相談し合える、情報交換できる場があれば、子育てをするうえで安心感を持てるのではないかと思います、魚沼市で初めてとなる双子サークルを立ち上げました。

活動内容を教えてください

子どもたちのためのサークルというよりは、お母さん同士のストレス緩和が何よりの目的なんです。今はLINEでの情報交換が主ですが、すぐに連絡を取り合える仲間ができたことが本当にありがたいですね。不要となったベビーカーや、捨ててしまうにはもったいない洋服なども、

LINEを活用しておさがり交換会をしています。

現状の課題はなんですか

多胎児家庭は社会的に孤立しがちで、単胎児家庭に比べて虐待リスクが高いともいわれます。

多胎児家庭へのサポートが充実している自治体もありますが、残念ながら魚沼市はそうでもありません。例えば、他市で行っている「ミルクの訪問配布事業」などで、月に1回でも家を訪ねて「大丈夫？」って一言声を掛けていただいただけでも、孤立感はずいぶん和らぎ、ありがたいのです。

多胎児育児の大変さはなかなか理解いただけないこともあります。そこで、サークル内でヒアリングした結果を基に、他自治体で行っている事業も挙げな

がら「多胎児育児家庭支援に関する要望書」を作成し、市に提出しました。

要望書をきっかけに、多胎児家庭の問題を認知してもらうことで、子育てしやすい社会になることを期待したいです。

市議会に一言！

双子が生まれることが不幸とは思っていません。しかし多胎児家庭への支援があるところで出産すれば助けてもらえて、ないところでは追い詰められる、そんな現状があります。地域格差がなく、多胎児家庭も安心して暮らせる魚沼市になるように、議員の方からも働きかけをしていただきたいです。

核家族化が進む中、双子の子育てには市の支援がなければ、支援のある市に引っ越ししなければ子育てできないほどに追い詰められている状況を知ることができました。

議会が早急に市に働きかけなければと感じました。

こちらのQRコードから「ふたごサークル さくらんぼ」のパンフレットをご覧ください。



令和2年度 中学生議会を開催しました

中学生の視点で 市政に提言



10/12 広神中学校での事前講義の様子。
議員から一般質問作成のコツを学びました。

11月24日に本庁舎議場にて、中学生議会が開かれました。今年度は、広神中学校3年生の代表生徒22人が議員を務め、8人の中学生議員が一般質問に登壇しました。

中学生議会は、中学生が地方自治について学習する中で、市政や市議会をより身近に感じてもらう、政治への関心を高めてもらうことを目的に開催しており、今年で4回目となります。

生徒の皆さんは、事前学習を通じて、グループごとに一般質問を作成して、議会に臨みました。当日は、中学生ならではの視点で、魚沼市をより良くするための提言を市長や教育長に対して堂々と述べました。

須原スキー場の有効活用について



いまい かける
今井 翔琉 議員

問 須原スキー場をPRするために、夏でもスキー場の土地を有効活用してはどうか。チュービングやジップラインの設置、リフトを使った夏の星空や紅葉を楽しめるイベントの企画をしたら観光客の増加につながると思う。

答 冬場に限らないスキー場の活用は、経営面においても非常に有効であると考えます。現在、市内スキー場は全て民営化していることから、市が直接取り組むことは困難ですが、市はこれまで観光客を増やすため、民間団体が行う様々なイベント等の支援を行ってきました。引き続き観光客の増加に向けて取り組んでいきます。

魚沼市を全国にPRする方法について



さとう そうま
佐藤 壮真 議員

問 魚沼市の名産品としてコシヒカリや日本酒などが挙げられると思うが、「魚沼市といえばこの料理」という魚沼グルメがないように感じている。何かグルメをつくって全国にPRできないか。

答 魚沼市の食文化を活かした「開高めし」や「モツ焼き」などがありますが、それらの知名度を高めるためには、さらなるPRが必要だと感じています。情報発信については、生産者や飲食店の経営者、専門家の方から意見を伺いながら、市民の皆さんと一緒に検討し取り組みたいと考えます。ぜひ中学生の皆さんからもアイデアを出していただき、PRをお願いしたいと思います。

広神地区の街灯の増設について



あおい 蒼 議員
やまのうち 山之内

問 広神地区は街灯が少ない地域があり、下校時に怖い思いをしている。熊や不審者のリスクを減らす意味でも、街灯を増やすことが必要であると考えます。

答 夜間の犯罪や交通事故防止のために設置する「防犯灯」は、市内全域でおよそ5,300台が設置され、そのうち約1,000台が広神地区に設置されています。原則、集落の中はその集落で設置し、集落間は市が設置することとしています。
ご質問いただいたとおり、防犯のための街灯設置は必要であることから、地域からの要望に基づき、増設を検討していきます。中学生の皆さんからも、危険に感じる場所がありましたら、地元の区長さんを通じてご相談いただきますようお願いいたします。

観光・市民の遊ぶ施設について

問

修学旅行で「ロツテ新井リゾート」を訪れた。そこで体験したツリーアドベンチャーは子どもから大人まで楽しめるアトラクションだった。魚沼市でも同様の施設をつくることで、観光客の増加や市民の娯楽にもつながると考えるが、市長はどう考えるか。

答

豊かな自然環境に恵まれた魚沼市にとって、森林等を活用したアトラクション施設を設置して幅広い世代の方々から楽しんでいただくことは、観光客を増やすためにも効果的だと思います。しかしながら、観光振興の観点でいえば、こうした施設はまず利益が求められるものであり、行政が運営するよりも民間事業者による設置・運営が望ましいと考えています。



ゆきね たかはし 高橋 幸音 議員

学校のICT化について



あかり みずおち 水落 朱里 議員

問

コロナ禍により、全国の学校ではオンライン授業が行われていると聞く。パソコンやタブレットを活用すれば、家庭内での学習効率上がり、学力向上に繋がると考える。市で全ての生徒にタブレットを配ることはできないか。また、学校内のWiFi環境の改善はできないか。

答

小中高全ての児童生徒に一人一台端末を支給するという国の「GIGAスクール構想」に基づき、魚沼市では、市内の小中学生全員分のパソコンを購入し、1月下旬から3月末までに各学校に配付することとしています。
また、各学校でWiFi環境の整備を行っており、3月末までに工事が完了する見込みです。完了すると、通信速度は現在のおよそ10倍になります。

熊の出没について

問

毎年、熊の出没情報が多くなるが、「〇〇で熊が出た」と、地名だけを言われても分かりづらい場合がある。そこで、熊が出た場所を地図上に表し、スマートフォンで確認できるようにしてはどうか。また、高齢者向けに、危険な場所を地図に表して、回覧板等で注意を促してはどうか。

答

熊の出没位置については、魚沼市のホームページで確認いただけるようになっていました。また、市報の折込チラシにQRコードを掲載し、スマートフォンで読み込むと、ホームページを見られるように工夫しました。
高齢者に対して、回覧板で注意を促すというアイデアは非常に良いと思います。関係団体や自治会と協議したうえで、具体的な対応を進めたいと考えています。



こうや みねかわ 峰川 虹弥 議員

只見線の本数について



やまのうち ゆうたろう
山之内悠太郎 議員

問 広神地域から高校へ通学する場合、只見線を利用する生徒が多い。しかし、只見線の本数が1日4本と少なく、不便である。通学の時間帯だけでも本数を増やして欲しい。

答 広大な面積を有する魚沼市において、只見線の利便性を高めていくことは重要な課題です。只見線の増便について、新潟県鉄道整備促進協議会を通じ、JR東日本新潟支社へ働きかけたかと考えています。只見線のみではなく、自家用車に依存する交通体系だけでは移動に困難をきたす方々もいますので、この地域で安心して暮らしていただくために、魚沼市では、持続可能な地域公共交通網を整備するための取組を進めています。

交通安全について

問 登下校の際、横断歩道で乗用車が停止してくれなかったり、高齢者が危険な横断を行う場面を見たことがある。交通事故防止のため、押しボタン式の信号機を増設して欲しい。

答 信号機は、警察を管轄する新潟県公安委員会が設置することになります。魚沼市では、各自治会や集落から設置要望があった場合に、小出警察署に説明し、要望を伝えることとしています。警察署では、現地調査を行い、信号機の設置をすべきかどうか判断しているようです。信号機設置には、多くの費用が掛かるため、要望どおりに設置されるとは限りませんが、危険を感じる横断歩道があれば、市の窓口までご要望を寄せていただきたいと思います。



おかべ まいほ
岡部 舞穂 議員

緊張感が漂う議場で、落ち着いて、堂々とした議事進行をしてくださいました。議長役を務めていただいたお三人から一言感想をいただきました。



かばさわ じゅんぺい
梶澤 潤平 議長

初めての議会を体験して、市議会が市のことをどれだけ考えているのかを知ることができました。また、前に出て行動することの大切さも改めて知ることができました。今後に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。



みずおち りほ
水落 李穂 議長

ずっと喜らしてきた魚沼市について改めて深く考えてみたり、新しくできた市役所に足を運んでみたり、緊張することもあったけど、楽しく学習することができました。貴重な体験をありがとうございました。



議長役、大変お疲れ様でした！

講評



教育長
梅田 勝

本日の一般質問は、市民がより安心安全に、より便利に暮らすためにどうしたら良いか、また、魅力ある魚沼市にするためにはどうしたら良いか、という視点で、自分たちのことだけではなく、市民全体の立場に立った具体的な提案や要望がなされており、大変すばらしかったです。

また、傍聴された生徒の皆さんも、一生懸命にメモをとりながら当局の答弁に耳を傾けていました。その姿を見て、全員参加でこの「中学生議会」をつくり上げているのだ、という真剣さが伝わってきました。

本日の提案が一つでも実現すれば市民の暮らしが豊かになるわけですから、皆さんの学習の成果が大いにあったということになります。今回の体験学習を通して、より政治に興味や関心を持っていただき、皆さんがこの魚沼市の発展に寄与されることを切に願っています。

※梅田勝教育長は、12月18日付で退任いたしました。

みなさんからの声を大切に

令和2年 第2回議会報告会
～市民の声を聞く会～

魚沼市議会では、開かれた議会を目指し、「議会報告会」を開催しており、令和2年度2回目となる報告会を10月29日に開催しました。

今回の報告会では、9月定例会における各委員会での審議内容や令和元年度決算審査について議会から報告させていただき、その後、参加者の皆さんと意見交換を行いました。いただいた貴重なご意見は、各担当委員会で協議し、今後の市政運営に反映していくよう取り組んでまいります。



小出ボランティアセンターにて開催した報告会には、17名の方々からご参会いただきました。

いただいたご意見の一部を紹介します

防災士の組織化 について

市内防災士の連携や技術向上を図るために組織化する計画を令和元年度中に行う予定とのことだが、延び延びになっている。進捗状況はどうなっているのか。

市長直轄組織 の設置を

将来に向け、魚沼市が発展するための方策を具体的に検討すべき時期。市長直轄組織を設置して、自主財源率を引き上げる取組をしてはどうか。

熊出没注意の 看板について

「熊出没注意」の注意看板として、パウチ加工された紙製のものが配付され、区長が設置しているが、耐久性のあるスチール製のものを設置してほしい。

貴重なご意見、ありがとうございます。今後、調査・検討をしていきます。



参加者アンケートの結果から

「市民の声を聞く会」の参加者アンケートでいただいたご意見、ご感想をご紹介します。

議会報告会が、より多くの声を聴ける場になるよう、ご意見を参考にして、内容を検証していきます。



- 子どもたちが魚沼市民であることを誇らしく思ってくれるまちづくりをお願いします。
- 以前のように、議会報告会は各地域ごとに開催をしてもらいたい。
- 魚沼市総合計画をテーマに報告会を開いてもらいたい。
- 後半の意見交換の時間を確保するためなのか、時間短縮のために各議員からの委員会報告の説明が省略されたのは残念だった。
- どの項目が目玉の施策なのか分かりづらかった。説明に強弱があるとより分かりやすい。

総務文教委員会報告

1 審査事件（12月22・23日）

議案第98号

魚沼市公共施設整備等基金条例の一部改正について
部改正について

議案第99号

魚沼市分担金等の督促手数料及び延滞金徴収条例の一部改正について

議案第98号・99号

※原案可決すべきものと決定。

2 調査事件（11月2日）

熊出没に対する小中学校の登下校体制について

市内で熊の出没が多数発生していることから、小中学校の登下校は、保護者からの送迎をお願いした。

問 保護者が送迎するのに困難な家庭はあるか。きめ細かい対応はどうか。

答 送迎のご協力はいただけているが、下校が時間的に困難な場合は学童保育を利用する方法もある。

第二次魚沼市総合計画後期基本計画（素案）について

コンパクトなまちづくり、地域包括支援システム、SDGsについての意見や質疑が行われ、今後も引き続き調査することとした。

財産譲渡の経緯について

問 無償譲渡を受けた地区が悪いという話になっているが、そうではない。執行部の無償譲渡の進め方問題があるので、経緯から明確にすべきではないか。

答 過去に遡って精査したい。

3 調査事件（11月13日）

第二次魚沼市総合計画後期基本計画（素案）について

計画案に対して、「ハザードマップをもとに、危険箇所、避難場所や経路などの情報を提供する」「保育ニーズの多様化に対応するため、多面的な保育サービスの提供や保育人材を育成する」「ファミリーサポート制度の提供会員の増加」などの意見が出された。

市民福祉委員長及び産業建設委員

長から、それぞれの所管部分に関する意見の取りまとめを、計画全体の所管委員会である総務文教委員長あてに提出してもらい、執行部に申し送った。

4 調査事件（12月23日）

原子力災害における避難計画について

問 避難者を受け入れる地域として、避難地域である長岡市との調整が非常に大事だ。その連携は常に取っていく必要がある。現状ではどうか。

答 現状は、直接的に長岡市とのやり取りは行っていないが、県を通じて、避難地区と避難人口とのマッチングを進めている。

魚沼市公立保育園等再編計画（素案）について

公立保育園の民営化方針が示され、私立保育園の新規開設の動きもあることが報告された。

問 当市の子ども・子育て支援事業計画に則っているか。市営の保育園の定員は減らしていく考えか。

答 新規で開園予定の法人は計画を理解している。また、法人の考え方は、地域を限定せずに、広く市内から保育方針に理解がある保護者の児童を預かりたいということである。基本的には民間活力が出るのは良いことと考えており、公立の定員のほうを、減していくことを想定している。

本件については調査終了とするにととした。

令和2年度雪による人的被害発生状況

問 雪下ろし等の対応をする可能性のある家屋が6件あるとのことだが、所有者の所在は分かっているか。

答 所有者の所在がほぼ不明の家屋である。相続放棄されている物件については、相続人にも連絡は試みているが、連絡がつかない状況である。最終的には市が負担をしなければならぬ可能性がある。

市民の声を聞く会の意見・要望の取扱いについて

市民の皆様からいただいた意見の対応区分を協議した。

市民福祉委員会報告

1 審査事件（12月22日）

議案第100号

魚沼市入湯税条例の一部改正について

問 改正により、対象になる方はどれほどか。

答 入湯税については、預かり税であり、対象となる事例はない。介護保険については、延滞金がかかる対象者が94人、後期高齢者医療については5人である。

議案第101号

魚沼市国民健康保険条例の一部改正について

議案第100号・101号

※原案可決すべきものと決定。

2 現地調査（10月26日）

魚沼地区障害福祉組合魚沼更生園の施設の現状と課題の調査のため、現地視察と意見交換を行った。

施設の老朽化、耐震化、入所者のプライバシー確保などの課題があり、大規模改修のための調査を行う

とのことだが、建替えも含めて検討していただくべきとの意見が出された。



意見交換の様子。魚沼更生園は、1984年に建設され、園舎のほか機械設備等も老朽化が進んでいる。

3 調査事件（11月10日）

魚沼市人権教育・啓発推進計画（中間見直し）について

問 インターネットによる人権侵害のモニタリング調査はどの部署が行うのか。

答 週1回1時間程度、市民課で対応する。

魚沼市地域公共交通計画について

問 基幹病院へのアクセスについて、具体的な改善点はあるか。

答 運行事業者との調整が必要であり、行政区をまたぐという問題もあ

るため、引き続き調整を進める。

第5期魚沼市障害者計画・第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画について

問 児童発達支援センター設置の進捗状況はどうか。

答 魚沼圏域で1カ所設置したいという県の意向もあるが、現在、具体的な協議は進んでいない。

魚沼市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画について

問 特別養護老人ホーム50床の増床の計画が進まない要因は何か。

答 介護人材不足が大きな要因の一つと受け止めている。

問 子どもたちに介護体験の機会を作り、介護職に就いてもらえるような教育をしてはどうか。

答 事業所の協力を仰ぎながら取り組んでいきたい。

「第二次魚沼市総合計画後期基本計画（素案）」について、市民福祉

委員会に関わる部分について執行部から説明を受け、質疑を行い、取り

まとめた意見を総務文教委員長あてに提出した。

4 調査事件（12月24日）

魚沼市地域公共交通計画（案）について

問 浦佐バイパスを通る基幹病院行きの路線は考えられているか。

答 六日町線については、路線を分割したうえで、バイパスは通らず、浦佐駅経由の基幹病院行きを考えているが、別路線と合わせ、南魚沼市、

運行事業者と協議を始めた段階であり、経路もその中で協議する。

「第5期魚沼市障害者計画・第6

期魚沼市障害福祉計画・第2期魚沼市障害児福祉計画」「魚沼市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」

「第2次魚沼市健康づくり計画」「健康うおぬま21中間評価」について、執行部から説明を受け、質疑を行った。市民の声を聞く会の意見・要望の取扱いについて

市民の皆様からいただいた意見の対応区分を協議した。

産業建設委員会報告

1 審査事件（10月27日）

請願第3号

「魚沼須原スキー場並びに市内スキー場の持続可能な運営を求める請願」

スキー場民間営化に向けた事業者との協議経過について、執行部から報告を受けた。民間化の条件の一つとして提示した無償譲渡と、無償貸付の検討をしたが、全てのスキー場において、その用地に公有地と民有地が混在しており、無償貸付を適用した場合、所有者・借受者・設置者という三者による契約関係が生じるため、適切な財産管理の観点から無償譲渡以外は困難との結論に至った。この内容を各事業者に伝え、再度交渉を再開したとのこと。

※引き続き審査を続けるべきとの提案があり、採決の結果、賛成多数で審査を継続することに決定した。

請願者から、さらに具体的な請願を提出するとの理由で、11月25日に請願取下書が提出され、12月22日に議会で承認された。

2 審査事件（12月25日）

請願第4号

「魚沼須原スキー場及び市内スキー場の持続可能な運営について市長への提言を求める請願」

（請願代表者に対する質疑）

問 前回と同様に守門地域の団体の請願であるが、市内のスキー場関係者と相談されたか。

答 守門地域として危機感を持ち、請願書を提出したものであり、ほかのスキー場関係者とは、時間的余裕がなく、相談していない。

問 前回の委員会から今日までで、公表できる変更点等はあるか。

答 前回の委員会以降、スキー場事業者との協議が行われておらず、報告すべき内容はない。

※今回の請願内容についてさらに慎重に調査・研究の必要があるとして、継続審議の動議が出され、採決の結果、閉会中の継続審査となった。

議案第103号

市有地の処分について

議案第104号

市道路線の変更について

議案第105号

市道路線の廃止について

議案第103号～105号

※原案可決すべきものと決定。

3 調査事件（10月27日）

「サンキューキャンペーンの忘年会等への利用拡大について」「水の郷工業団地の分譲について」「令和2年度における魚沼市ツキノワグマ出没等対応の経過について」、執行部から報告を受け、質疑を行った。

4 調査事件（11月12日）

寿和温泉大規模改修に関する経過について

この施設は、露天風呂・ヘルスセンター・温泉プールの3棟で構成されており、開館から20数年が経過する。老朽化が進んでいることから、改修工事設計業務委託を発注し、平成30年から大規模改修工事に着手。露天風呂改修工事は完了したが、その他の工事については、市民との合意形成を図りながら検討していくとして、一旦中止となった旨、執行部から説明を受けた。

問 方向性は決まっているのか。

答 大規模改修、内湯と露天風呂の

改築、コンパクト施設の整備という3つの案で検討しているが、国・県の補助金を受けていることもあり、最終的にはトータルコストの比較を出した段階で検討したいと考える。

「第二次魚沼市総合計画後期基本計画（素案）」について、産業建設委員会に関わる部分について執行部から説明を受け、質疑を行い、取りまとめた意見を総務文教委員長あてに提出した。

5 調査事件（12月25日）

「除雪車の事故について」「プレミアム商品券について」「見晴らしの湯こまみのろ過装置の不具合について」「須原スキー場における雪害について」、執行部より説明を受け、質疑を行った。

市民の声を聞く会の意見・要望の取扱いについて

市民の皆様からいただいた意見の対応区分を協議した。

公共施設再編整備 特別委員会報告

1 調査事件（10月13日）

第1期公共施設再編整備計画の進捗状況について

旧町村地域ごとに分けた施設の一覧表を基に、令和元年度末の達成・未達成状況について執行部より説明を受け、質疑を行った。

旧庁舎利活用の現状について

旧町村のそれぞれの庁舎の現状について説明を受け、質疑を行った。

問 7月16日の委員会では、広神庁舎2階は市内事業所の移転先として調整しているとの報告だけであり、「社会福祉協議会」の名前は出てきていない。市と社会福祉協議会とで内諾のような形で、議会には報告がなかった。社会福祉協議会が、その関係団体に、市内6会場で延べ122人の参加者に説明したところ、参加者からは旧広神庁舎への移転に対して反対が出て、議会宛てにも、「社会福祉協議会事務所の位置

を考える会」から要望書の提出があった。強制的に移動させられると受けとめる人が多いようにも聞いている。執行部はどのように受け止めているか。

答 社協側から不都合のないように事務所の移転について関係団体に説明し、協議を進めていると理解している。

問 移転問題については決定ではなく白紙撤回で、引き続き検討で間違いないか。

答 白紙撤回ではなく、広神庁舎へ移転するという方向性は一致しているが、移転時期が4月1日では難しいと考えている。

2 調査事件（12月8日）

社会福祉協議会の移転について

問 広神庁舎に移転することが1年前に分かっていたながら、福祉団体や市民に知らせていなかった。透明性が欠けていたことが一番問題だったと思うが、行政の透明性を図るために、今後は議会や市民に対して適切に情報を知らせて頂きたいがどうか。

答 そのように努力させて頂きたい。

議会改革特別委員会

1 調査事件（11月5日）

委員会のインターネット配信映像配信について

ユーチューブでの映像配信の試行を行い、検証を行った。

●音が聞き取りにくかったが、映像の解像度は悪くなかった。

●執行部側の映像も必要ではないか。

●技術的な問題もあるが、まずは配信してみることが大事。配信後の市民の反応を見て、改善策を見つけてはどうか。

※3常任委員会の映像配信からスタートし、その後順次全委員会の映像配信を行うこととした。

2 調査事件（1月14日）

改選後の常任委員会の構成について効率的に検討を進めるため、作業部会を設置し、論点整理を行った。

作業部会での検討結果を委員会に報告し、つぎのとおり決定したので、議長に報告することとした。

① 総務文教委員会及び産業厚生委員会（仮称）の2常任委員会とする。

② 定数は、総務文教委員会9人、産業厚生委員会9人とする。

③ 総務文教委員会の所管は現在と同様とし、産業厚生委員会の所管は、現在の市民福祉委員会と産業建設委員会を合わせた所管とする。

④ 議長が常任委員会に所属するかどうかは、議長判断によるものとする。

「委員会課題のまとめ」及び「令和2年度中学生議会の検証を行った。

※中学生議会については、14ページをご覧ください。



YouTubeチャンネルで、常任委員会や決算審査特別委員会等の映像の限定配信を行い、委員間で検証を行った。

国勢調査員を

やって感じたこと

並柳 関矢 隆さん

昨年は国勢調査員を任せられました。この時に感じたことを述べたいと思います。

地元の約80軒を担当しました。集落を一軒一軒回ってみると、普段気付かないことがあります。例えば、家はあるけれど新潟市に住んでいない家族。持ち主は東京に住んでいて、別荘のような家。じいちゃんが一人で住んでいたけれど、今は南魚沼市の息子さんと暮らしている等々、肌身で感じた過疎化でした。

ここで思い出すのが、十日町市の大地の芸術祭です。3年毎の開催ですが、来場者数は50万人とのこと。実際に行ってみましたが、アート作品が畑や田んぼの中にあったり、古民家の中に陳列されていたり、新鮮な体験でした。また、市内の商店街も閉まっている店はほとんどありませんでした。ハコものをつくって人を集める時代は終わったのではないかと思います。

6回目の年男を迎えて

今泉 星野正昭さん

子どもの頃、70歳といえば相当のお年寄りだと記憶している。まさか自分がその年齢を超えた老人になった自覚はしていなかったが、山での歩く速度も遅くなり、一層進んだ物忘れなどから、体力、気力ともに着実に衰えているのは間違いない。

新潟県の男性の健康寿命は72歳といわれている。これからは健康に留意し、「寝たきりと認知症は努力によって防ぐことができる」と言われているので、生活面でしっかりと自立し、生き生きと暮らしたい。また、新型コロナウイルスに感染しない、させないため、十分な睡眠とバランスの良い食事に心がけ免疫力を高めたい。そして、一人ひとりができる「新しい生活様式」の実践に努めたい。



わが校自慢

広神中学校の自慢は、物心ともにご支援くださった温かい地域のみなさんに支えられ、生徒も職員も笑顔であふれ、充実した学校生活を送っていることです。

昨年はコロナ禍で「広神ふれあいまつり」が中止となってしまいました。そこで下条コミュニティ協議会の皆様の協力で、1年生が栽培したさつまいもを使って、校内で「干し芋」づくりに挑戦しました。上級生や1年生の家庭にも配り、全校でおいしくいただきました。



中学生議会を終えて笑顔の一コマ

今年度の中学生議会は広神中学校の3年生から取り組んでいただきました。議会終了後に、クラスごとに記念写真をパチリ！



※「中学生議会」の詳細については14~16ページをご覧ください。

あとがき

明けましておめでとう
ございます。

大雪の中、迎えた令和3年も早1カ月が経ちました。昨年からの猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の収束の目途も立たない中、市民の皆様方からは「自分自身が考え、行動して問題を解決する」自助、「共に支えあい助けあい、お互いを気づかいあう」共助を理解し、実践していただきありがとうございます。

私も市議会も、公助として行政が市民に今何をすべきかしつかりと考え市民に寄り添った市政運営となるよう、議会の機能をしっかりと発揮して頑張ってまいります。

(関矢孝夫)